Aichi University of Education

教職の魅力共創
愛知教育大学　未来共創プラン

愛知教育大学
NEWS Vol.4

2023年3月31日発行

## シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」を開催

2022年11月26（土）、愛知教育大学講堂にて、シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」が開催され、対面とオンラインで計177名の参加がありました。本シンポジウムは、国立大学協会との共催による大学改革シンポジウムとして開催されました。登壇者は、大石邦彦氏（CBCテレビニュースアンカーマン）、上西将寛氏（キャッチネットワーク記者・ディレクター）、加藤祥子氏（中日新聞社教育報道部記者）、早川浩史氏（江南市立布袋小学校長）、兼子明氏（西尾市立平坂中学校長）、野田敦敬氏（愛知教育大学長）です。前半は6名のシンポジストによるパネルディスカッション、後半は、中学生、高校生、現職教員、さらにはコミュニティ・スクールの運営に携わっている地域の方など、実に多様な参加者によるグループディスカッションが行われました。

大石 邦彦 氏

上西 将寛 氏

野田学長の挨拶に続き、小塚良孝副学長より本学が進める「教職の魅力共創」プロジェクトにも触れながら、教職に関わる情報共有と共創を目指すことが本シンポジウムの趣旨であると説明がありました。

続いて、司会者が提示したテーマに応答するかたちで各シンポジストからご提案をいただきました。「教育報道の現状についてどのように考えるか？」「報道機関またはジャーナリストとしてどのように報道してきたか？」というテーマについて大石氏は、コロナ渦のなかで部活の大会が中止された中学生の声を聞いて名古屋市長に開催を訴えた自身の報道とその後に受けた批判を取り上げ、何かに光を当てると別のところに影ができること、しかし「影」の部分にものごとの本質があり、その部分を照らしていくことが報道の役目だと感じていると述べました。上西氏は、自身の作成した地域ドキュメンタリー番組を紹介しながら、地域に密着し、地域の課題を発信していくことが求められていると指摘しました。加藤氏は、これまでどのような姿勢で教育問題の報道に向き合ってきたかを述べながら、権力を持つ人ではなく個人に焦点を当てるのが報道の役割であり、自らが記事を書くことで子どもたち、学校、社会にどのような影響があるのかを考えて発信していきたいと述べました。

加藤 祥子 氏

早川 浩史 氏

兼子 明 氏

「教育報道の現状についてどのように考えるか？」「どのような発信・情報共有をしてきたか（していきたいか）？」というテーマについては、早川氏、兼子氏、野田学長が応答しました。早川氏は、「現場の教員不足は非常に深刻であるが、教師が幸せじゃないと子どもは幸せになれない。地域の人との願いを共有していくことが重要だ」と述べました。兼子氏は、「過度に単純化された報道が多いように感じている。具体的な提言や共有ができる報道が必要ではないか。教師の存在まで否定するような報道よりも、実際の“声”を丁寧に拾っていただきたい」と指摘しました。野田学長は、「メディアに登場する教育問題の見出しが非常にネガティブな印象を与える傾向について指摘し、そうした内容が教師を志望する学生らにどのように受けとめられるかを意識した報道を求めたい」と述べました。

野田 敦敬 学長

続いてパネリスト間の質疑応答では、「教師の質は下がっているのか？」という質問に対し、現職校長である早川氏や兼子氏から「今、教師になる人はかつてと比べると熱心な傾向がある。しかし、教師本来の業務に専念できない多忙な環境がある」「教師の経験値をカバーする環境、例えば中堅教員の少なさもあり若手教員に対する寛容なまなざしが少なくなっている」といった現状が語られました。

後半は、参加した中学生、高校生、現職教員、学生、大学教職員を6～7名のグループに分け、「どのような報道や発信を行うと学校に対する理解が深まり、よりよい教育の未来につながるのか？」というテーマについてディスカッションを行いました。本学教職員や学生のファシリテートのもと、非常に和やかな雰囲気でディスカッションが進められました。各グループの提案内容も具体的でユニークなものがありましたが、それ以上にこうした問題について多様な立場の人々が対話し、ヴィジョンを形成していくプロセスの大切さを示した場となりました。

後半グループ・ディスカッションの様子

Interview
教職の魅力 インタビュー

# 自分と異なる考えを取り込みながら成長する教師へ

深谷 圭助 先生
中部大学現代教育学部 教授
公立・私立小学校 13年、公立中学校 7年、大学 12年(収録時)

インタビュー動画

## 教師としてどのような学びを積み重ねてきましたか?

若手の頃から研究授業を多くしてきました。いろいろな先生に授業を観てもらうという機会が自分を成長させる貴重な場になっていたと思います。そうした場で、自分とは異なる視点でコメントをいただいた同僚や大学の先生方に非常にお世話になりました。そのときのつながりが今でも続いています。

## これから教師を目指す人や若手教師に必要とされる学びは何でしょうか?

教師の専門性を形成する上で、まずは大学の教職課程で学ぶことが根幹になりますが、実際の学校現場や子どもたちは実に複雑です。特定の理論や実践事例がそのまま適用できるようなものではないということに気づかされます。そのような点で、様々な視点やものさしを持っていることは非常に重要です。試みてみたことがうまくいかなくても、その「うまくいかない」ということがどういう意味を持つのかを考えることが大切になります。したがって、現場に入ってからも学び続けることが必要ですし、そのときに異なる考えを排除するのではなく、自分の中に取り込んでいくことが重要になると思います。

Interview
教職の魅力 インタビュー

# 経験と振り返りを地道に積み上げ、自分なりの姿勢を創り出す

濱地 航平 先生
愛知県立一宮聾学校 教諭
教職6年目(収録時)、教科:国語

インタビュー動画

## 教師になることへの不安はありましたか、またそれをどう乗り越えたかについて教えてください。

学生時代は「自分は教師に向いているのだろうか」と常に自問していました。もともと教師という職を志望していたわけではなかったからです。講義や書籍から知識だけは得ていたのですが、実際に子どもとうまく関わる自信が無く、自分のことを「頭でっかち」と感じていました。ある日、療育施設の見学をした際、職員の方から「今、頭でっかちにならずに、いつなるんですか」と言われ、気持ちが楽になったことを覚えています。教師となった今でも、日々「あのような授業の仕方、指導の仕方でよかったのか」と自問しています。これは、学生時代のような不安に起因するものではありません。子どもたちに対し、より良い関わり方や指導方法を見出すために必要な態度だと思っています。

## 教師としてどのような学びが大事だと考えていますか?

経験を積み重ねる中で、「あのような授業の仕方、指導の仕方でよかったのか」と振り返り、改善を重ねることが肝要です。教師の仕事に、新しい理論や手法を構築するような派手さはありません。経験と振り返りを地道に積み上げ、いつしか自分なりの姿勢が固まってくるのだと思います。極端かもしれませんが、「自分は教師に向いているのか」「自分はこれでいいのだろうか」と自問することこそ、教師に必要な力なのかもしれないと私は考えています。もちろん、教師を志望してわき目もふらず邁進することも素敵なことだと感じます。でも一方で、「本当に自分はこれでいいのか」と迷いながら来た人こそ、冷静に客観的に、自分の指導を見つめ直していけるような気がしているのです。もし「自分は教師に向いているのか」と迷っている方がいたら、その時点ですでに「教師に向いている」ということだと考えてほしいですね。

Interview
教職の魅力 インタビュー

# 多様な背景をもつ目の前の子どもの変化に合わせて学ぶ教師に

小出 竜也 先生
名古屋市立堀田小学校 教諭
教職11年目(収録時)

インタビュー動画

## 教師になることへの不安はありましたか、またそれをどう乗り越えたかについて教えてください。

私は学生時代、初めから教員を目指していたのではなく、薬学部に在籍して薬剤師を目指していました。将来の進路を真剣に考えているうちに、教師になりたいと思うようになりました。そのきっかけとなり、私の背中を押してくれたのが、当時関わっていた子どもたちでした。子どもたちから「先生が学校にいてくれたらいいのに」という言葉をもらうことがありました。私が支えることで、子どもが安心して成長できるような存在になりたいと強く思うようになりました。私自身が子どもの時を振り返ってみると、「あの先生がいてくれた」おかげで、毎日の学校生活が楽しくなったり、できることが増えたりしたことが数多くあります。これからも「子どもから求められ、成長を支えられる存在になりたい」という初心を忘れることなく努めていきたいと思っています。

## 教師としてどのような学びが大事だと考えていますか?

今の自分に満足せず、いつまでも学び続ける姿勢が大切だと考えています。教師の学びに終わりはなく、目の前の教育課題に対応していかなければならないです。教師が学ばなければならないことは日々変わってきていると感じています。多様な個性や背景をもっている子どもや社会の変化に合わせていく必要があります。私が教師になったときと現在を比べると、10年経っただけで学校現場も大きく変わっていることがあります。子どもが一人一台タブレット端末を持つようになったり、外国語やプログラミングといった新しい学習が始まったりしました。これからもその時々に求められる力をバランスよく身に付けて、よりよく対応できるようにしていきたいです。

Interview
教職の魅力 インタビュー

# 子どもに寄り添い、ともに成長する教師を目指したい

(写真左) 島田 真琴 さん (愛知県立半田東高校 教育コース出身)
(写真右) 鈴木 花 さん (愛知県立豊橋南高校 教育コース出身)
愛知教育大学教育学部 1年生(収録時)

インタビュー動画

## 目指す教師像について教えてください。

(島田) 私が目指す教師像は、子どもの立場を理解し、悩みを持った子どもに寄り添い、安心して相談をすることができる教師です。

(鈴木) 子どもたちの「できた!」「わかった!」を増やしていき、未来への可能性を広げられるような教師になりたいと考えています。児童・生徒が日々成長していくように、教師も共に成長して様々なことを吸収し、学んでいきたいです。

## 教師になることへの不安はありますか? どんなことに不安を感じますか?

(島田) 悩みを持った生徒に気づけられるだろうか、また気づけたとしてもどこまで踏み込んでよいのだろうか、生徒の状況によって接し方を考える必要がある教師はとても難しい職業であるように感じています。大学生活の中で様々な人とコミュニケーションをとり、自分にはない考え方を知り、相手の立場に立って考えることができるように成長していきたいと考えます。

(鈴木) 教師は児童・生徒にとって保護者の次に身近な大人であって、「お手本」となるため、言動により一層注意する必要があると考えています。また、児童・生徒を預かっているという責任や、子どもの人生の一部に影響を与えていくことを考えると少し不安になってしまうところもあります。私は小学校の教師を目指していますが、小学校は中学校、高校につながっていく最初の段階であるため、学ぶことの楽しさを感じていくことができるような授業ができるようになる必要があると感じています。

# 教職の魅力 アンケート調査2022 を実施

教職の未来共創プロジェクトでは、2021年度より本学キャリア支援課と連携しながら、調査研究を実施しています。2021年度は、教員採用選考試験（以下「採用試験」という。）を受験する学生数の減少傾向の原因を探るために、本学4年生を対象としたアンケート調査を実施して、教職を回避するに至った理由を類型化しました。そして、2022年度については、採用試験を受験した本学4年生を対象として、教職を志望するという意思決定に影響した事柄を明らかにするために、調査を実施しました。

キャリア支援課が実施している進路決定調査にともなう「採用試験を受験した学生へのアンケート」には、2023年2月13日の時点で合計308名の学部4年生から有効回答を得ました。そのうち、「採用試験を受験すると決めた時期はいつですか?」という設問に対して、「入学前から教員志望だった」と回答した4年生は265名、「入学後、採用試験の受験を決めた」という学生は43名でした。そこで、「『教員になりたい』という意思決定に影響した項目を、有力な順に6つまで回答してください」という設問の第一理由について、教職を入学前に志望した学生と入学後に志望した学生に分けて示した回答結果は以下の表のとおりでした。

▶表：「教員になりたい」という意思決定に影響した項目の第一理由の割合

| | 実習体験 | 授業内容や教員の話 | 友人との話、周囲の雰囲気 | 親との話し合い | アルバイト、ボランティア等の体験 | 先輩からの話（教職関係） | マスコミ等の報道内容 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学前 | 28.1% | 20.8% | 8.4% | 6.2% | 3.6% | 1.5% | 0.4% | 27.7% |
| 入学後 | 53.5% | 11.6% | 11.6% | 4.7% | 9.3% | 2.3% | 0.0% | 7.0% |

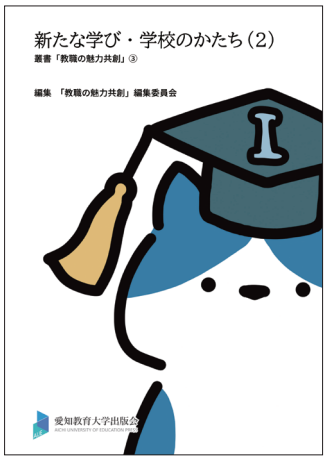
上記の回答結果から、教職を入学前に志望した学生と比較して、入学後に志望した学生は実習体験を意思決定に影響した第一の理由として回答する傾向が強いことが分かりました。また、教職を入学前に志望した学生の回答において「実習体験」の次に割合の高い「その他」と「授業内容や教員の話」と回答した学生は、小学校から高校までに出会った憧れの先生の影響を挙げる傾向が強いことが、第一理由についてより具体的な記入を求める自由記述設問の回答結果から分かりました。

本アンケート結果で示唆された教員志望の動機付けの内実をより詳しく捉えるために、入学後に教職を志望した学生へのインタビュー調査と入学前に志望した学生に対する追加アンケート調査を現在実施しています。これらの調査結果と昨年度の調査結果を合わせることで、学生の個別事情に対応することができるキャリア支援のあり方について検討していきます。

## ご案内

### 叢書「教職の魅力共創」
### 『新たな学び・学校のかたち（2）』『写真でひと言－体育の魅力共創－』を刊行

愛知教育大学「教職の魅力共創」編集委員会（委員長 野田敦敬）では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、2022年度より叢書「教職の魅力共創」を刊行しています。今回は（社会共創編）『新たな学び・学校のかたち（2）』と（教科領域編）『写真でひと言－体育の魅力共創－』の2冊を2023年3月に刊行いたしました。ぜひご覧ください。購入については、愛知教育大学出版会のホームページをご確認ください。アマゾン公式サイトからも購入できます。




愛知教育大学出版会
社会共創編 ¥1,000（税込）

愛知教育大学出版会
社会領域編 ¥990（税込）

国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／
愛知教育大学　未来共創プラン
戦略3　教職の魅力共創プロジェクト

https://cocreate.aichi-edu.ac.jp